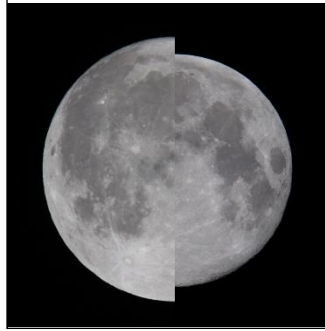


開館 30 周年記念イベント開催中

のち つき じゅうさんや きゅうれき つき
後の月 十三夜 旧暦9月13日の月 今年10月15日
満月前の少し欠けた十三夜の月を愛でる習慣は日本独自のもので、
平安時代から始まったようです。

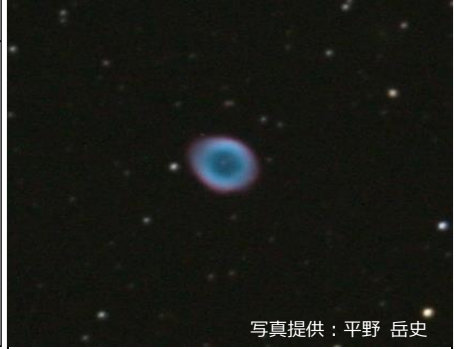


いちばんちきゅう ちか
2024年、一番地球に近い
一番大きい満月 10月17日

月と地球の平均距離は約38万kmですが、
楕円軌道のため、遠い時は約40万km、近い
と約35万kmと約5万kmも差がつかます。
左写真：最大の満月と最小の満月 提供：平野 岳史

ぎんが せいうん せいだん
銀河・星雲・星団

M57 こと座のリング星雲 2600 光年



写真提供：平野 岳史

にくがん そうがんきょう
肉眼or双眼鏡で見えるか！

ツーチンちゃん すいせい
柴金山・アトラス彗星

写真提供：三島 和久

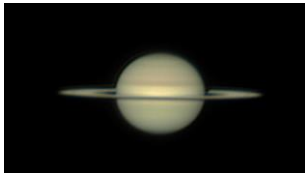
10月半ばごろから夕方西の低空に見え始め、
20日ごろに見やすくなると予想されています。

右写真：9月26日夜明け前、東の低空の柴金山・アトラス彗星



どせい わ しょうしつ
前号からの続き 土星の環の消失
2025年は3回起こる

土星の環は非常に薄いため、土星の環を真横から見る時(下図)、地球
から環がほとんど見えなくなる「環の消失」が起こります。土星は約30
年で太陽を公転しますが、太陽と地球と土星との位置関係で約15年毎
に環の消失が起こります。

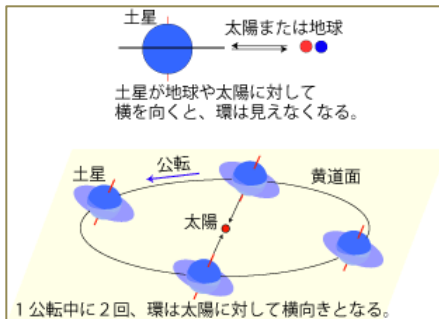


土星写真提供：平野 岳史

地球と土星との距
離は約15億km。
それに対し、
土星の環の厚みは
約数十m。



・ディオネ



上図提供：国立天文台

2024年10月12日19:00の土星の衛星の位置
星図：ステラナビゲーターVer.12/天文アストロアーツ/天文スキー

エイチ カイ にじゅうせいだん
h-x ペルセウス座二重星団

h:7500 光年 x:7170 光年



写真提供：柿沼 史規

M31 アンドロメダ銀河 250 万光年



写真提供：柿沼 史規

M15 ペガスス座球状星団 33600 光年



写真提供：国立天文台

じゅうせいれんせいてんたい
今月の見どころ 重星連星天体

肉眼では1つだが、望遠鏡を使うと2つ以上の星
アルビレオ(はくちょう座) くちばしの星。オレンジ3等と青5等の
星が寄り添うように輝きます。

こと座 ε 星 ダブルダブルスター 双眼鏡では二重星、望遠鏡で見ると四
重星。二重星(ε1、ε2)のそれぞれがさらに二重星。ε1は5.0等と
6.1等、ε2は5.1等と5.4等の連星系。

いるか座 γ 星 黄色の4.3等と青色の5.2等の二重星。

アルマク(アンドロメダ座) 黄色の2.2等星と青色の5.0等星の二重
星。連星系。

しろいメール配信サービスに
登録しましょう

下のQRコードで登録してください。
イベントの前にメールが届きます。

◎コンサート情報
◎イベント講座情報
◎文化センターイベント情報

